

科目ナンバリング		U-LAS70 10001 SJ50					
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：森を育て活かす - 林業体験をとおして考える ILAS Seminar :Introduction to Forest Resource Management and Utilization			担当者所属 職名・氏名	フィールド科学教育研究センター 准教授 長谷川 尚史		
群	少人数群	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)
開講年度・開講期	2024・前期集中	受講定員 (1回生定員)	5(5)人	配当学年	主として1回生	対象学生	全学向
曜時限	集中	教室	未定			使用言語	日本語
キーワード	林業 / 森林資源利用 / 循環型社会 / 過疎問題 / 森林文化						
[授業の概要・目的]							
近年の地球環境問題の顕在化や脱原発等の社会的要請により，社会そのものが大きく変質せざるを得ない状況にある。我々は今後，エネルギーや資源をどのように循環させる未来社会を構築すべきか，その道筋を含めて考え，行動していかなければならない。 日本人は古くから様々な形で森林を改変し，利用しながら，独特の文化を育んできた。現在，日本には2500万haの森林があり，国土に占める森林の比率（森林率）は68.2%（FAOによる数値）と，先進国の中ではフィンランドに次いで2位である。その4割（1000万ha）が人工林化されており，十分な資源量を蓄積している。森林は太陽エネルギーの力を借りて物質として利用可能な資源を生み出す魔法の工場とも言えるが，林業不振のために近年はあまり利用されず，間伐遅れによる森林荒廃，中山間地域の過疎，伝統文化の断絶など，様々な問題を引き起こしてきた。 一方で地球環境問題の深刻化から，再生可能資源である林業の意義が世界的に再び見直され，成熟した人工林資源を活用を軸にした林業の成長産業化に関する動きも活発になってきている。 本セミナーでは，森林調査，間伐，集材など，伝統的に日本で行われてきた林業作業を体験するとともに，最先端の林業の作業現場や木材利用の見学を行う。 世界有数の森林国である日本では，様々な社会要素が森林に直接的，間接的に関与しており，来るべき循環型社会の中で，森林資源をいかに持続的に利用するかについては，様々な専門分野の人材が必要となる。理系，文系を問わず，様々な学生の参加を期待する。本セミナーへの参加を通し森林国ならではの視点を獲得し，真の国際人としての素養を身につける第一歩として欲しい。							
[到達目標]							
自分たちの生活と森林との接点を理解し，未来社会での森林との付き合い方を考え行動する基盤を身につける。特に，森林と密接に関係してきた日本文化を幅広く理解し，山村の過疎問題や日本社会の将来像について，具体的に自分なりの意見を述べるができるようになることを目標とする。							
[授業計画と内容]							
京都大学フィールド科学教育研究センター和歌山研究林（和歌山県有田川町）において，森林調査，間伐，集材など，伝統的に日本で行われてきた林業作業を数日にわたり体験する（作業内容は調整中）。 また京都との往復の間に，日本で最も古い林業地のひとつである奈良県吉野地域に現存する270年生のスギ人工林を見学するほか，長期にわたって持続的に管理されてきた高野山奥の院および木造建築の見学，周辺地域の事業体における最先端の林業経営の見学，十津川村産材産直住宅の見学等を予定している。 本セミナーは，夏期（8/19または8/26の週を予定）に宿泊を伴う集中講義形式（3泊4日）で開催する。これに先立ち，前期期間中（5月下旬頃）に説明会を実施する。							
----- ILASセミナー：森を育て活かす・林業体験をとおして考える(2)へ続く！ -----							

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

セミナー開催中における受講態度（積極性・協調性などを4段階に評価）およびセミナー終了時に提出してもらうレポート（理解度・積極性・論理性などを6段階に評価）により，それぞれ40点，60点の配点で採点する。

[教科書]

5月下旬に予定している説明会時に，林業の歴史と現状，近年の動向，将来の方向性などに関する資料を配付する。

[参考書等]

（参考書）

長谷川尚史『林業イノベーション - 林業と社会の豊かな関係を目指して』（林業改良普及双書）
ISBN:ISBN978-4-88138-333-9

[授業外学修（予習・復習）等]

自分の日常生活の中で，木材をはじめとする森林資源がどのような場面で人間社会で活用されているかを観察しておくこと。また，生活圏内にある森林に着目し，その管理状況を観察する（特に時間を割いて観察する必要はない）。観察した森林と森林資源の活用の実状について，それが持続可能な状態であるかどうか，また持続可能な状況にするために，自分の立場からどのように貢献できるかについて，考えておく。

[その他（オフィスアワー等）]

実施時期：8月下旬を予定しているが，参加者の希望を聞き，相談の上で決定する。採点報告日（8月中旬）以降に実施するため，成績報告が遅れる可能性がある。

費用：宿泊は和歌山研究林，移動は公用車を利用するため，期間中の宿泊費および交通費はかからないが，集合地点（奈良県橿原市周辺を予定）までの交通費および食費は実費（10,000円程度を予定）。宿舎には広い風呂がなく，温泉施設で入浴する日があるので，その費用も負担のこと。事前に学生教育研究災害傷害保険に加入しておくこと。